

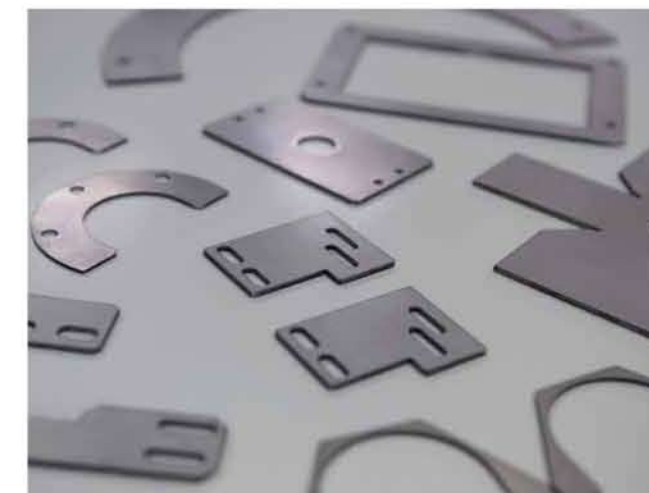
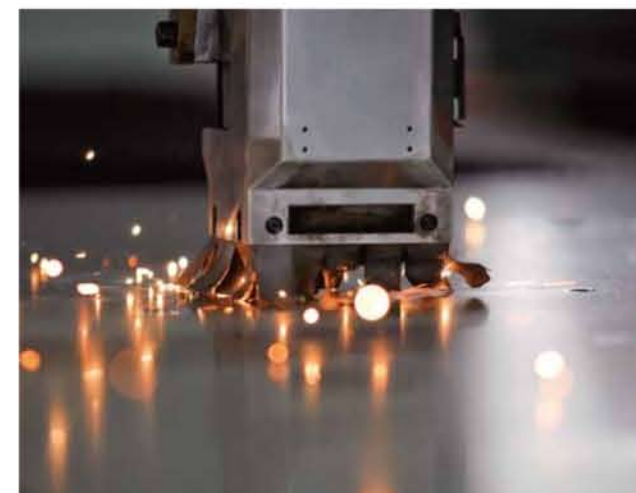
有限会社田中製作所



事業者名 有限会社田中製作所
 代表者名 代表取締役 門田 悦子
 設立年月 昭和47年8月
 所在地 〒701-0113 岡山県倉敷市栗坂467-19
 TEL/FAX TEL.086-463-4150 FAX.086-463-0578
 U R L <https://www.tanaka-ss-oka.co.jp/>
 資本金額 1,000万円
 従業員数 14人
 業 種 計装板金業
 事業計画名 レーザ・パンチ複合機の導入による板金加工製品の短納期化・低コスト化



省力化によって得た時間を有効に 技術継承や教育、環境改善に活用



導入背景

業務に忙殺され、技術継承に危機感

『田中製作所』は昭和47年の創業以来、主として配電盤・制御盤の筐体製造を手掛けてきた。その後、景気の影響で盤製品の市場は縮小したが、多品種小ロット・一貫生産体制を強みに、農業機械の試作品や機械部品の分野で受注を獲得している。しかし、試作品や機械部品は厚板で複雑な形状が多く、現有のタレットパンチプレス機では加工が不可能なケースも多い。その場合、レーザー加工を外注するしかなく、コストがかさんでいた。また特に試作品については、製作工程の中で気づいた問題点を顧客にフィードバックする必要があるが、外注工程での問題には関与できず、完全な情報を提供できないジレンマがあった。その上により、作業者の時間的ゆとりがないために、社内の技術継承が進まないことが喫緊の課題であった。

実施内容

レーザー加工機を導入し内製化・省力化

こうした状況から設備増強は必須であり、平成25年11月、レーザ・パンチ複合機を導入。扱える板厚は、タレットパンチでは3mm程度までであったのが、6mmまで可能となった。金型の選定や割付作業の必要がなく、ボタンひとつでCAMデータまで作成される。切断スピードが圧倒的に速い上、切断面が平滑でバリ取りなどの後処理がいらないため、大幅なリードタイム短縮が見込める。一度のセットでレーザー切断からパンチ穴開け加工まで自動ででき、スピーディかつ高精度で安定した加工がおこなえる。従来機と新型機で同じサンプルを製作したところ、新型機では17分の時間短縮となった。加工方法や手順を作業員同士で確認し、外注から内製に切り替え可能な製品を選別した。

事業成果

外注費削減、技術継承の時間も獲得

レーザー加工の内製化により、これまで買掛費の30%を占めていたレーザー加工外注費が11%まで減少、所要日数は3日以上短縮。結果的に、作業員1人につき1日1時間以上×5人分の時間短縮が図れた。試作品についても顧客に有益なフィードバックができたことで信頼を増し、受注量が増加した。設備投資によって大幅な省力化を実現したが、真の目的はその先にあり、省力化によって得られた時間をいかに有効に活用するかに主軸を置いて取り組みを進めた。得た時間を、これまで日々の業務に追われて手がつけられていなかった、熟練者から若手への技術継承、教育・研修、社内コミュニケーションなどに存分に活用しており、会社としての将来ビジョンを能動的に描けるようになったことが一番の成果である。

今後の展望

「説明会で行列のできる会社」が目標

社内の知的財産の継承が進み、ノウハウの必要な特注の盤製品などの製作も若手がこなせるようになってきた。また、機械の余力を利用してデザイン性の高いオリジナル製品作りにも挑戦しており、この分野も少しずつ伸ばしていきたい。時代に合った社内制度を整備し、「家業」から「企業」への転換を進めている。今、社員全員で会社を盛り立てようというムードが高まっており、若い人材を惹きつける魅力ある会社を目指している。



代表取締役 門田 悦子